

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 二島 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

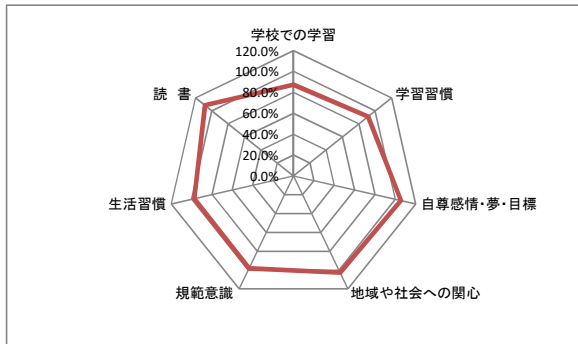
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	読む能力に関しては、全国平均を上回っています。しかし、その他の話す・聞く、言語についての知識・理解に関しては下回っています。特に、書くことに関しては、課題をもっている児童が多いようです。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	内容を読み取り、その内容にあった適切な文章を選択する問題はよくできていました。	
	努力が必要な問題	文章を読んで、その内容を整理して、わかったことをまとめて書く問題は正答率が低くなっていました。	
算数	全体的な傾向や特徴など	量と測定の領域を苦手としています。また、知識・理解の正答率は大きく離れていませんが、それを扱う技能については苦手さが見られます。選択式の問題は比較的できますが、記述式の回答になると無回答が多くなる傾向があります。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	グラフを見て、そこからわかることを選択する問題や図形の中から台形を見つける問題は正答率が高くなっています。	
	努力が必要な問題	面積の求め方や計算の仕方についてどうすればよいかを書いて答える問題は正答率が低くなっています。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
学習習慣は、	普段1時間以上学習をしているという児童は全国平均より多いですが、自分で計画を立てて勉強している児童は少ないです。宿題や塾等での学習が中心になっているようです。学校での学習は、調べたことを発表したり、自分で問題を解決する方法を考えたりするといった主体的な取組をする必要があります。読書が好きという児童は全国平均より高く、国語での読み取り課題の正答率が高くなっていることにつながっているのではないかと考えます。将来の夢をもつ児童や自分には良いところがあると答える児童が多く、自尊感情は高い傾向が見られます。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

読み取る力に優れている一方で、記述式で回答する問題に苦手さがあります。自分の考えをまとめて書く体験を授業の中に取り入れ、表現する力を高めていく必要があります。また、国語の漢字や算数の図形などの基本的な知識に苦手意識をもつ児童がいるため、基礎的な知識はしっかりと身に付けさせる必要があります。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習は行っていますが、宿題などの与えられた課題の取組になっているため、計画を立てて自ら学ぶという主体的な取組を行う力を育てる必要があります。自尊感情は高いため、自分を見つめなおして、自分にとって必要なことを考えて取り組むという経験を積ませるようにすることで主体性を伸ばしていく必要があります。